

第2回研究データポリシー策定のためのワークショップ 開催報告
国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会
令和5年12月1日

第9回統合イノベーション戦略推進会議（令和3年4月27日開催）による「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」に基づき、2025年までに研究開発を行う各機関は研究データの管理・利活用に係るデータポリシーの策定が必要となっている。

この取組を支援するため、国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会では、令和4年度から協会参加館に研究データのポリシー策定および管理等への図書館の関与にかかるアンケートを実施している。

アンケート結果を踏まえ、主にポリシー未策定機関を対象として、策定に資するため、ワークショップをオンライン方式（ZOOM）にて開催しており、以下に第2回ワークショップについて報告する。

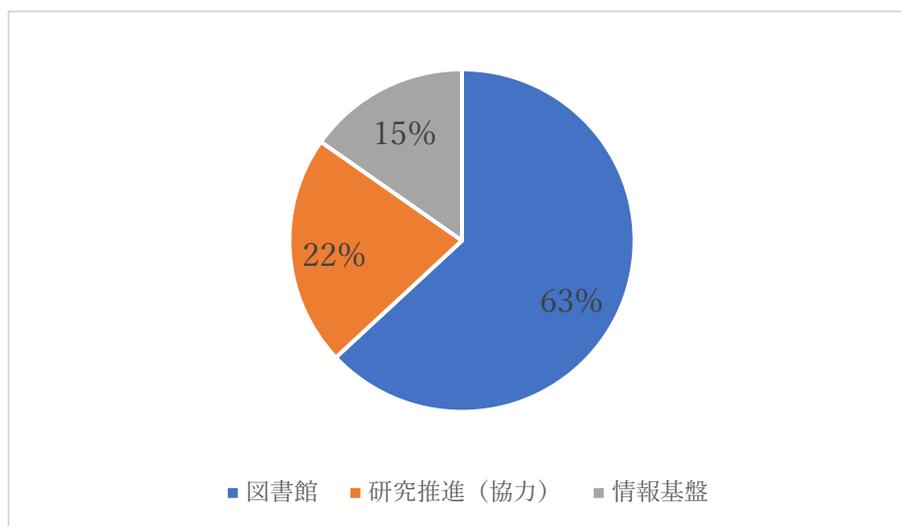
1. 開催概要

- ・ 日時：令和5年11月22日（水）14:00～16:00（120分）
- ・ 対象：自機関の研究データポリシー策定を目指し、意欲を持って他機関とのワークショップに参加することのできる国立大学図書館協会会員館の職員および会員館が所属する機関の関連する部署の職員
- ・ 事例報告者（敬称略）：
 - （信州大学）
 - 岩井 雅史（附属図書館副課長／情報システム・学術資料（雑誌）グループリーダー）
 - 早川 知宏（研究推進部長）
 - （愛媛大学）
 - 家方 真由美（図書館事務課学術情報チーム チームリーダー）
 - 菅野 杏美（研究支援部研究支援課研究企画・戦略チーム部員）
 - （一橋大学）
 - 石山 夕記（学術・研究推進部研究支援課研究公開促進係（兼 学術情報課電子情報係））
- ・ 内容：
 - アンケート調査『「研究データのポリシー策定および管理等への図書館の関与について」の追跡調査』の分析結果報告
 - 研究データポリシーの策定経緯の紹介（事例報告）【各15分×3大学】
 - 事例報告質疑応答【15分】
 - グループでの情報交換・意見交換・課題の共有【20分】
 - 全体での意見交換【15分】

会員館からのべ46名の参加があった。

参加者の所属部署区分

- ・ 図書館：29名
- ・ 研究推進（協力）：10名
- ・ 情報基盤：7名



2. 事例報告

①信州大学における研究データポリシー策定の経緯（信州大学）

- ・ 研究データ保存に関して、図書館と研究推進部や情報部門等が情報交換しながら、データポリシーの策定及びデータ管理に係る支援体制や基盤整備のあり方について検討して来た。
- ・ ポリシー策定では、先行大学の事例や大学 ICT 推進協議会 (AXIES) 研究データマネジメント部会の「大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン¹」を参考にした。
- ・ ポリシーは研究推進部からの意見で、研究インテグリティやオープン・アンド・クローズ戦略にも言及している。
- ・ 研究データ管理は、研究者の権利であり責務でもあると位置づけ、管理主体は研究者であるとし、公開・非公開についても公開が原則ではなく、研究者が判断することとし、公開する場合は利用条件ライセンスを付与することとした。
- ・ 大学は、研究者支援を行うことを明記し、具体的な内容は解説で例示している。
- ・ 研究推進部からは、研究情報の持つ価値について『公開と活用の側面（①学術研究の発展は成果の蓄積のうえに成り立つ（巨人の肩に乗る）や②研究公正担保の観点）』と『産

¹ <https://rdm.axies.jp/sig/70/>

学連携の秘匿活用（③経済的資産価値や④研究セキュリティ（インテグリティ）の観点）』の両面から意見を述べた。

- ・ 今後は、①ポリシーの実施要領を策定し、研究者は具体的に何をすればポリシーに従ったことになるのか、具体的にわかりやすく伝える。②研究データ管理計画（DMP）の作成やメタデータ付与に関する支援内容を検討する。③研究データ管理に関する広報やFDを進めることなどを行っていく予定である。

②研究データポリシーの策定経緯の紹介（愛媛大学）

- ・ ポリシー策定には、教員、図書館、情報システム課、研究支援課等で作るワーキンググループを設置。グループ長の小林千悟教授（学長特別補佐）がすでに、2023年7月24日 第2回東海地区学術データ基盤セミナー²においても愛媛大学における研究データポリシー策定の事例を紹介している。
- ・ 愛媛大学では研究支援部主導でデータポリシーの策定が行われた。
- ・ 2021年11月にワーキンググループを設置、アンケート調査結果を踏まえ、ポリシーとその解説・補足を策定し、学長への説明を経て2023年3月に制定、4月に公開した。
- ・ ポリシー解説はワーキンググループにおいて分担執筆した。
- ・ 今後は、①各部局等における研究データ管理・公開等運用規定の雛形準備、②部局等における研究データの管理・公開等の運用規定制定に向けて研究データポリシー講演会を実施、③各部局等における研究データ管理・公開等運用規定の作成などを予定している。

③研究データポリシーの策定経緯の紹介（一橋大学）

- ・ 令和3年は、各部署において各会議体で研究データに関わる動向の情報提供を行うにとどまっていたが、令和4年7月に実務担当者による打ち合わせを行い、12月に研究データ管理・利活用ワーキンググループが発足することになった。令和5年1月からは、組織改組により研究支援課と学術情報課が1つの部にまとまった新体制にて、ポリシーの検討を開始した。
- ・ 各部署の先生方の意見を伺うため、部局長会議を通じてサウンディングを実施した。
- ・ 先生方からは、学外者が一橋大学の施設を利用して共同で行った研究のデータの取扱いや、データの具体的な種類、管理範囲及び公開範囲等に関する質問が多かった。
- ・ 他部署との連携においては、実務担当者同士の意識のすり合わせや、他部署の考え方に合わせながら進めることが重要だった。
- ・ ポリシーは策定後の方が大変で、ポリシーの実効性や管理基盤のGakuNin RDM導入等に関わる課題がある。

² <https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/information/event/2023-06-30-seminar.html>

④質疑応答（チャット含む）

chat-1：2023年6月のアンケート調査報告について、この時点で国大図協会員館でポリシー策定済は22機関とのことだが、AXIES-JPCOAR 研究データ連絡会のポリシー一覧に掲載されているのは私立大学3機関も含めて19機関のみ。同一覧は「本文が公開されているもののみ」であることや、アンケートには大学以外の研究所も含まれている等から、対象の違いはあるものの、策定済みの国立大学で同一覧に未掲載の場合は、掲載を国大図協の中でも呼びかけた方が良いでしょうと思います。

→ 確認し、策定済みで未掲載の大学にお声がけする。

chat-2：特に工学系大学では企業との共同研究でセンシティブにならざるを得ない部分が多く、信州大学では、研究セキュリティの面で問題が発生したときの責任の免責事項などをデータポリシーの解説に盛り込んでいるか。

→ ポリシー、解説ともに免責事項は含まれていない。今後検討する。また秘密情報の管理に関する、オープン・クローズドのガイドラインも今後考えたい。

chat-3：愛媛大学で学長説明の際にあった修正指示とは、どのような点でしたか。

→ 草案の段階では、ポリシーの目的に謳っていた文章は、愛媛大学憲章を下敷きにしていて、憲章の実現を図るために研究データの管理・利活用を進める旨、書いていた。憲章は地域貢献等を軸にしているため、研究データポリシーにはそぐわないのではないかと指摘を受け、データ駆動型科学やオープンサイエンス推進の必要について入れるように修正した。

chat-4：各事例発表大学では、ポリシー草案策定段階で先行大学の事例を参照しながら、自大学の実勢に沿ったアレンジをされたと理解したが、その際に参考とした学内情報、もしくはアドバイスをもとめた関係者はおられたか。

→ ①信州大学では、たたき台を部局に一度示し、意見を伺うというプロセスを一度経ており、いろいろな部局から、それぞれ意見が出てくる中で、詳細な意見をいただいた先生には、個別に話を伺った。

②愛媛大学では、ポリシーの補足解説について、小ワーキンググループで原案を作ったが、その中の URA の先生がオープンサイエンスや研究セキュリティのことに豊富な知識をお持ちであったため、ご意見をいただいた。

③一橋大学では、ポリシー策定前にリポジトリ運営委員の教員にインタビューを行い、またポリシー確定時にはサウンディングを行って、意見を反映したが、実際に特定の先生にアドバイスを求めたことは今のところない。ただ、特許関係のアドバイスが求められるよう、法学研究科の先生にアドバイザーとしてリポジトリ運営委員会に陪席していただく体制をとっている。

chat-5：リポジトリに研究データを入れる際のメタデータ項目を具体化されている機関はありますか。

→ 信州大学では最近、登録の際に書いてほしい項目を並べた質問票のようなものを作った。まだ一回使っただけなので、今後、使いながら修正を加えていくつもり。

chat-6：一橋大学では、研究データ登録申請書の作成はどこが担当されたか。作成の際に基にしたものなどあるか。また申請書受領後の想定フローを教えてください。

→ 研究データ登録申請書は、リポジトリにデータ登録する際の申請書として、図書館のリポジトリ担当者が作成した。内容は、科研費交付申請の「データマネジメントプラン」の様式に限りなく近いものとした。フローとしては、研究データ登録の依頼時に、研究データと一緒に提出いただくか、あるいは論文に付随するものであれば別途、論文登録申請書があるので、合わせて研究データ登録申請書も出してもらうフローを考えてる。

通話-1：一橋大学は社会科学系のデータ取り扱いについて、知見や経験をお持ちの先生が多くいらっしゃるイメージがあるが、研究データポリシー策定の上で何か調整等を行ったか。

→ 本学研究所の方で独自に公開しているデータリポジトリはあるが、策定の過程でちらとの調整は特にしておらず、データリポジトリを運営してきた経験からのアドバイスも特に受けていない。

3. グループでの情報交換・意見交換・課題の共有【20分】

●A班：参加者それぞれのポリシー策定状況を確認し、各々抱える課題を出した。

- ・ ポリシー策定よりは、その後の実運用の具体化が心配
- ・ 策定しても、先生方の対応が伴うかが不安
ポリシー策定自体は何とか出来そうなので、既に策定済みの先行大学に、実際に作った際の先生方の意見等どんなものがあつたかアドバイスいただいた。
- ・ 実施方針、実施要領の作成を進めていると、研究者は具体の手順がわかる説明を求めてくる
- ・ 先生方の疑問、質問は、どこも似通ってくるのかもしれない。見本みたいな想定問答集があると良いが、なかなか想定ができない

●B班

B-1 各大学の現状

- ・ 全学のワーキンググループが設置される前にポリシーを策定。これから運用などについて検討予定
- ・ ワーキンググループが設置された段階で他大学にヒアリング中
- ・ 担当部署も決まっていない

B-2 担当業務との兼ね合い

- ・ ワーキンググループは兼業
- ・ 研究推進がデータポリシー、図書館はシステム周りと分業（オープンなことをやるにはクローズドなことをきちんと押さえる必要があると感じている）

B-3 今後のアクション

- ・ とりあえず図書館からのアクションを求められている（いろんな部署や教員を巻き込んでいきたい）
- ・ ポリシー策定は研究推進係が主導という意識のすり合わせはできているが、図書館は情報提供を心掛け、関係部署を巻き込んでいきたい

●C 班：各大学の状況共有

- ・ ポリシー策定はサクサク行ったが、解説やガイドラインの策定の難しさに直面している（どこまで全学で作成し、どこから部局に作ってもらえばよいか）。他大学は2年位かかっているという話を聞き、2025年までに作成できるのかが懸案である。

●D 班：各大学の状況共有（何が困っているのか情報提供。聞きたいこと等の話し合い）

- ・ 今年8月に図書館と研究推進課で検討を開始。学長は了解済み。学認RDM導入の検討、東海エコシステムコンソに入会。具体的には何も決まっていない。
- ・ データポリシーは研究協力課が所掌しており、図書館が中心ではない。ワーキンググループには図書館も参画。ワーキンググループメンバーで先行大学の話を聞いたところで進捗していない。
- ・ ポリシー策定を研究推進にて担当中。先行大学のポリシーをみて大学の規模を鑑み策定中。教員インタビューも開始。来年8月を目途に作成予定。
- ・ 学内で話が進んでいない。どの部署が主導権を持っているのか把握していない。問題意識があるだけ。他部署との話し合いを持つ機会がなかなか持てない悩みがある。

●E 班：各大学の状況

- ・ ワーキンググループを立ち上げて検討中。今年度中の策定を目指している
- ・ 遅い方。研究推進会議に諮ったが差戻しに。情報収集中
- ・ 研究推進に指示あり。ワーキンググループ設置が承認されたところ
- ・ 検討組織がない。他大学を参考に草案を作っているところ。アンケート準備中。
- ・ 研推と図書館の間でなかなか話が進まない。研推からリアクションが返ってこない
- ・ 先生の関心が低い。課題の一つ
- ・ 2025年の即時OA対応では、対象論文数の把握はどうするのか。研推の部署では把握しているのか
- ・ 図書館・研推・情報の三棘みはどこも同じ

●F班：各大学の進捗共有

- ・ 策定中のところもあれば、未策定で体制が整わず止まっているところもある
- ・ 具体的な困りごととして、研究者の範囲や異動の取扱い、学生の取扱いなどが挙がる
- ・ JAIRO Cloud への乗り換えを検討しているところは使い勝手等、いろいろ気になっている

●G班：各大学の状況共有

- ・ 未策定・策定中の大学と、策定済の大学があった。策定中の大学には、ワーキンググループを作成し、教員アンケートを実施したところもあった
- ・ 学内でどの部署が担当するかという話が多かった。図書館で担当する大学もあれば、図書館よりも研究部門が主体になった方が、説得力があるのではないか、という意見もあった
- ・ そのほか、リポジトリに搭載するデータについても話題になった

●H班

各大学状況報告の後、意見のすり合わせ方法について意見交換。オープン・クローズの決め方、リポジトリ登録の方法について意見交換。

4. 全体での意見交換【15分】

各班で話し合ったこと等を全体で共有した。

- ・ 研究者の定義をどうするか、特に研究者の異動に伴ってどう扱うかということと、学生をどのように扱うかということについて、それぞれ情報共有した。異動については、他大学からデータを持ち込んだ後も保持しつづけるのであれば、ポリシーの対象にする案がある。学生については、大学院生はポリシーの対象にする案もある。
- ・ ポリシーたたき台の段階で、学内でどのように合意形成したのかという点を情報共有した。総合大学でも単科大学でも、データを扱う以上は、どのくらいセキュアにしているのか、あるいはすべてオープンには出来ないのではないかという意見に対し、どのように意見をすり合わせているのかを話し合った。大学によっては、国の戦略であり、このような潮流に乗ることを丁寧に説明している場合や、たたき台を作る段階のワーキンググループ形成時に、各分野の専門の先生に入っただき、様々な意見で揉んで行く場合もあり、大学の規模に関わらず、様々な方法があった。
- ・ 学部に分かれて、実施要項を作るという本日の事例報告も踏まえ、総合大学で分野が異なる学部構成である場合に着地点をどうするかといった点を議論した。
- ・ ゴールとして、各分野のローカルルールを、どういうふうに策定したら良いのか、また根本となるポリシーには最大公約数的にどういうふうに要素を組み込み、含めると良いのかといったこと等について話し合った。

- ・ サイズの大きいデータを載せたい要望があり、工学系の先生等では 1 テラバイトにもなることもあるので、その際には、外部のデータリポジトリにファイルを置き、機関リポジトリでは、メタデータを掲載し、リンクを飛ばすようにするのが良いのかといった話題があった。

今回の参加者名簿では、連絡先の共有が可能な方については、メールアドレスを掲載しており、今後も情報共有を続けてほしい旨、運営側から依頼し、意見交換を締め括った。

5. 閉会挨拶

国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会委員の杉田京都大学附属図書館事務部長より、ポリシーを作る過程では、研究データ管理というテーマを大学の執行部等、様々なところに話題共有して行くことが大事である旨の挨拶があった。

以上

国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会

「第2回研究データポリシー策定のためのワークショップ」アンケート結果（まとめ）

開催日時：令和5年11月22日（水）14:00～16:00

アンケート期間：11/30(木)まで

回答数：22

■ご回答者の担当業務をお教えてください。（自由記述を分類）

図書系	12
研究推進系	8
その他	2

■参加結果を踏まえて、さらに他機関に聞いてみたい事項

（ポリシー策定）

- ・ ポリシー原案はワーキンググループや委員会で議論しながら構築していったのか、またはたたき台を事務方から提示したのか。
- ・ 他機関の策定済みの研究データポリシー、ポリシーはオープンサイエンス型かコンプライアンス型か
- ・ ポリシー及び解説策定済み機関のこれから作成する機関に向けた、「こうしておけばよかった」「ここをもっと精査すればよかった」というような案件、実際の運用まで考えたときの留意事項

（ポリシー策定後）

- ・ ポリシー策定後に、実際に運用を回していくためには、どのような対策を考えているか。
- ・ 研究データの登録状況・進捗
- ・ 部局における実施方針等の策定状況
- ・ DMP作成の手続きの整備状況
- ・ データ登録手続きの整備状況
- ・ 事務担当部署の関与や課題等

（運用）

- ・ 研究データの管理基盤に関して、どのようなシステム構成にするか
- ・ 研究データの保存先、ストレージの選定方法、容量、予算の確保等

■今後、開催してほしいイベント等

- ・ 研究データ登録（RDM）実務に関するイベントや理解を深められるイベント
- ・ リポジトリでの研究データ公開
- ・ 具体的な Gakunin RDM の使い方やメタデータ付与の方法についてのセミナー

■イベント開催にあたり希望する時期・時間帯

- ・ 平日の午後、16 時頃までに終了すると良い。
- ・ 2 時間程度が適当
- ・ 月末月初は避けてほしい。
- ・ 大学の一般的な繁忙期を避けてほしい。

■その他、ご意見ご感想

（グループワーク）

- ・ グループワークの時間（20 分）が短かく、30～40 分くらいはほしかったという意見が複数寄せられた。
- ・ グループ分けでは、ポリシーの策定前と策定中の大学を均等に振り分けた方が良い。
- ・ 今後も本ワークショップの需要は大きいと思う。

（連絡先の共有）

- ・ 参加者の連絡先、メールアドレスの共有は良かった。

（全般）

- ・ 策定済み大学の実務担当者からの事例発表はとても参考になった。
- ・ オンラインゆえに、発言者によって聞き取りにくい場合があった。
- ・ 図書館と研究推進（協力）、双方の報告があったのが良かった。
- ・ 他大学の実情が聞けて、有意義なワークショップであった。

※ 今後の課題

今後、引き続いての未策定機関への支援と、策定後の実際の運用を踏まえた対策等について、学内外の関係部署、機関間で情報共有を図って行くことが期待されていると思われる。

以上